

2023(令和5)年12月1日

## 塔本シスコさんが描く 古里の作品を通して 宇城市をプロモーション

### 【経緯・目的】

今年4月に宇城市不知火美術館で開催された画家・塔本シスコさんの作品を集めた企画展「おかえりさない、シスコさんー100年前の松橋を旅する」では、多くの来館者がシスコさんの描く100年前のふるさとの姿に触れ、その温かみと生命力に心動かされました。

この塔本シスコさんの作品について、このたび塔本シスコさんの孫で著作権者である福迫<sup>ふしお</sup>弥麻さんから、市のプロモーションへ使用することに賛同いただきました。

第一弾として、塔本シスコさんが少女時代を過ごした古里、下益城郡豊川村(現・宇城市松橋町)を描いた絵画作品らをモチーフにデザインした名刺を作成し、市長をはじめ職員が名刺を使用することで、作品の素朴な温かさと素晴らしさ、そしてシスコさんの<sup>ゆかり</sup>縁の地としての宇城市をプロモーションします。

- 1 名刺の仕様** 絵柄 6種
- 2 使用作品** 「古里の家(シスコ、ミドリ、シユクコ、ミア、ケンサク)」1988年  
「シャク取り(不知火海にて)」1989年  
「オノダチの大運動会」2001年  
「ウマイレガワ」2001年  
「もらったラン、もらったシクラメン」1996年
- 3 塔本シスコさんの略歴** 大正2年八代郡郡築村(現・八代市)生まれ。生後まもなく西崎<sup>でんはち</sup>傳八・ワリ夫妻の養女となり、下益城郡豊川村(現・宇城市)で少女時代を過ごす。53歳で初めて油絵を描き、54歳で美術展に初出品。以降、大阪・枚方の団地の4畳半をアトリエに、日々のくらしと溢れる思い出を大きなキャンパスに描き続け、生涯を通し数多くの作品を遺した。
- 4 その他** プロモーション期間中は、宇城市不知火美術館所蔵の作品を会見用バックパネルで紹介します。

**問い合わせ** 市長政策部企画課 (部次長)坂本 (係長)前田  
担当: 広報プロモーション係  
〒869-0592 熊本県宇城市松橋町大野 85  
TEL:0964-32-1902(直通) FAX0964-32-2222